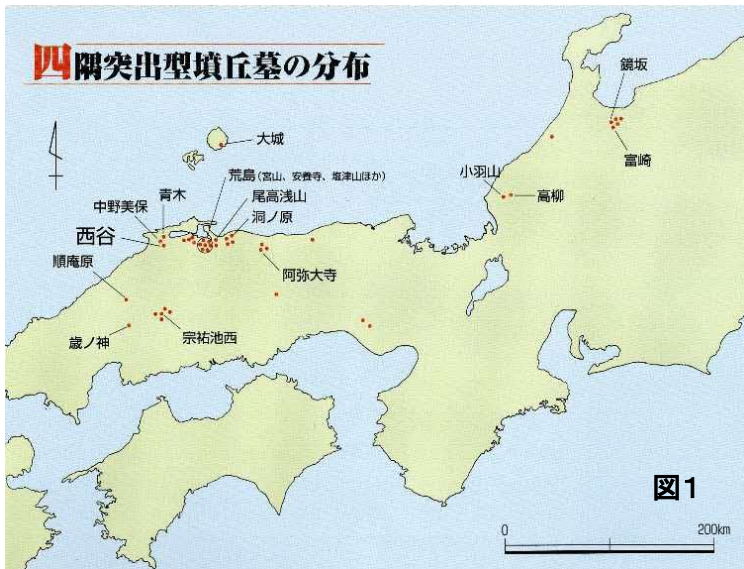
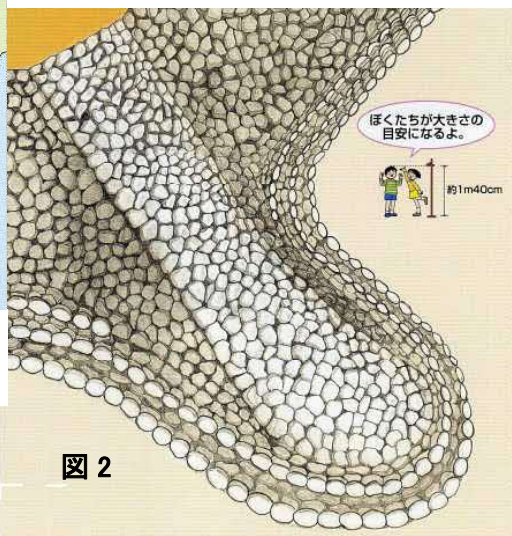


時代	弥生時代	遺跡	おおしろ 大城遺跡(隠岐の島町)
弥生時代の奇妙な墓 ～「四隅突出型墳丘墓」の時代～			
青銅器が大量埋納され使用されなくなる頃、それにあわせるように中国山地や日本海沿岸部で、 よすみとつしゅつがたふんきゅうぼ 四隅突出型墳丘墓とよばれる独特な外観をした墓が作られるようになりました。			



四隅突出型墳丘墓の突出部

四隅突出型墳丘墓は、古墳が出現する直前の墓です。山陰の四隅突出型墳丘墓は、墳丘の表面が石で覆われています。図2のような突出部は、墓の上にあがる道という説があります。↓



弥生時代中期後半～後期には、中国山地や日本海沿岸部で、四隅突出型墳丘墓がつくられました。



大城遺跡(隠岐の島町)

大城遺跡は、西郷湾を見下ろす丘陵の上にあり、この地方の首長の墓と考えられます。副葬品には、土器や管玉などがあります。管玉は、濃緑色で縞模様のある碧玉製のものが10点出土しました。時代は弥生時代後期後葉で、花仙山(松江市玉湯町)産のものです。この時期の花仙山産碧玉を使った管玉は類例が少なく、貴重な出土例です。



図4 出土した管玉



出典：解説…(図1・2)『国指定史跡西谷墳墓群』2006 出雲市役所文化財課 (図3)『大城遺跡』1996 隠岐の島町教育委員会 (図4)『輝く出雲ブランド～古代出雲の玉作り～』2009 島根県立古代出雲歴史博物館

ワーク…(写真)『大城遺跡』1996 隠岐の島町教育委員会

～弥生時代の奇妙なお墓～

年 組 名前

弥生時代の後半以降には、中国山地や日本海沿岸部で、四隅突出型墳丘墓とよばれる独特な形をした墓が造られるようになりました。



復元された大城遺跡

Challenge

- 右の写真は「大城遺跡」で見つかった弥生時代の終わりごろに築かれたお墓です。少し変わった形をしていますね？ 気付いたことを書いてみましょう！



発掘された大城遺跡の四隅突出型墳丘墓



コラム

大城遺跡では、隠岐唯一の四隅突出型墳丘墓が発見されました。約18m×10m程の大きさです。墓からは、王のアクセサリーと考えられる玉などが見つかりました。

